



1 子の立派な成長を願う辻・瀬戸口の風習。輪の中に入るのは15歳になる子どもたち 2 掛け声に合わせて縄を編んでいく、男性たちも笑顔があふれる 3 すべて編み終わって円形に。地区の人が作った大きなぞうりを下げると完成



リポーター 安井 佳奈

特集2 協力隊レポート「湯前の十五夜」

# 人集う、月明かりの夜

「おーつきさんが、おーつきでたよ」。湯前音頭の覚え方にも「月」が登場します。蒸し暑さがなくなり、涼しい風が吹く夜。毎年この季節になると、普段は真っ暗な夜道でも月明かりだけでのんびり歩くことができます。今回は、十五夜にかかわる地域の行事についてみていきましょう。

### 公園から響く男性の声

9月23日。ある町民から町内で十五夜の伝統行事があると教えてもらい、カメラを持って出かけることに。今回は辻・瀬戸口地区と山ノ口地区へ向かいました。この日は十五夜の前日。どちらの地区も、毎年この時期に十五夜の行事として縄編みをするのだそうです。

涼しくなり始めた午後5時ごろの瀬戸口地区の辻公園。子どもたちが元気に走り回るその奥で、何やら声が聞こえます。「こうのつせ、こうのつせ」。男性3人がかけ声にあわせ、力を込めて縄を編んでいました。何十本のわらを一束にして、継ぎ足しては編みを繰り返して、どんどん長い縄になっていきました。

### いつか、子どもを見守る側に

こちらでも、この行事が終わると公民分館に入り、観月祭が始まりました。鉢盛りだけでなく、地区の人が心を込めて作ったトウモロコシやミカンなど、手作りのものが並んでいました。

十五夜で編んだ縄は、儀式が終わると最後は木に掛けられます。雨や風にさらされ、わらが腐るなどして切れて落ちるまでがこの十五夜の伝統の流れです。縄は十五夜のあとにやってきた台風24号の強い雨風にも耐えて、しっかりと下がっていました。

今回は、2つの地域を取材しましたが、町内ではほかにも縄編みをしている地区や観月祭を開く地区もあるそうです。ずっと守られ、受け継がれてきた地区の伝統行事。今の子どもたちが大人になり、将来子どもたちを見守る側に立ったときに、ふと懐かしく思う、そんな日が来ることを願っています。

特集 人集う、月明かりの夜(完)

15歳の子の健康を願う  
何十年も伝統の縄編みを続けてきた先輩と途中で交代し、後輩たちは編み方を受け継ぎます。どんどん編まれていく縄。一体どのぐらいの長さになるのでしょうか。別府幸治さん(69)瀬戸口)に聞いてみると「子どもの人数によって変わる。まあ、だいたいはのどが渴いてきたらそいでしま(終わり)。観月祭でうまか焼酎の飲むつこと(飲めるように)ね」とのこと。



4 山ノ口では縄を円形に巻いて御神酒をあげたあとに、子ども相撲が行われている 5 十五夜での儀式が終わり、木にかけられた縄。切れて下に落ちるまでが役目



編んだ縄を伸ばす作業。十五夜は地区の大人と子どもと一緒に汗を流す機会になっている

辻・瀬戸口地区では、その輪の中に15歳になる子が入り「健康に育ち立派な大人になるように」という願いを込めてお参りをしていました。十五夜に併せて15歳の子が入るのだからか。

### 大人と子どもの笑い声

次に、山ノ口地区へ行きました。こちらでは、山ノ口公民分館にある大きな木に引っかけて、縄を編んでいきます。ひねりながら力強く編み、完成できた縄は辻・瀬戸口地区と同じよう

に円形に重ねて巻いていき、大人が御神酒で清めます。子どもたちは一列になつて静かに見守っていました。そのあと縄を使って、子どもたちが相撲や綱引きで楽しみました。山ノ口地区では、子どもたちが大人と綱引きで勝負するのが恒例になっています。日が落ちても大人と子どもの笑い声が響いていました。地区の子どもたちの成長を大人みんなで見守り、楽しんでいるのを見て、地区の人の温かさを感じました。



大人も子どもも真剣勝負。温かな笑い声が周りに響く